

平成 28 年度第 5 回常務理事会議事録

日 時： 平成 29 年 2 月 14 日（火） 15：00～17：10

会 場： 日本産科婦人科学会事務局会議室

出席者：

理事長：藤井 知行

副理事長：八重樫 伸生

常務理事：青木 大輔、苛原 稔、加藤 聖子、吉川 史隆、北脇 城、齋藤 滋、竹田 省、
吉川 裕之

監 事：岩下 光利、嘉村 敏治

特任理事：大須賀 穰、荻田 和秀、生水 真紀夫、宮城 悦子

顧 問：吉村 泰典

第 69 回学術集会長：工藤 美樹

理事会内委員会委員長：岡本 愛光、竹下 俊行、増崎 英明、峯岸 敬

総会議長：佐川 典正

総会副議長：田村 秀子、光田 信明

幹事長：阪埜 浩司

副幹事長：梶山 広明

幹 事：上田 豊、川名 敬、岸 裕司、北澤 正文、桑原 章、佐藤 豊実、佐藤 美紀子、
寺尾 泰久、西 洋孝、西ヶ谷 順子、西郡 秀和、長谷川 ゆり、松村 謙臣、
三好 博史、諸隈 誠一、矢内原 臨、山上 亘、吉野 修

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事のうち 10 名が出席し（木村正副理事長は欠席）、定足数に達しているため、藤井知行理事長が開会を宣言した。議事録署名人には理事長、監事の計 3 名を選任し、これを承認した。続いて、平成 28 年度第 4 回常務理事会議事録を承認した。

I. 業務担当常務理事報告

1) 総 務（青木大輔理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

①清川尚功労会員（東京）が 12 月 6 日にご逝去された。（東京地方学会より 2 月 3 日に報告受領）

②岡田弘三郎功労会員（兵庫）が昨年 5 月 15 日にご逝去された。（兵庫地方学会より 2 月 13 日に報告受領）

(2) 平成 29 年度臨時総会議事次第について [資料：総務 1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 平成 29 年度臨時総会総会資料作成スケジュールについて [資料：総務 2]

(4) 平成 28 年度臨床効果データベース整備事業について、厚生労働省医政局より平成 28 年度医療施設運営費等補助金 63,536,000 円の交付決定通知書を受領した。[資料：総務 2-1]

青木大輔理事「実際の入金は来年度になる。引き続き報告書の作成を進めている。現在は個人情報

保護法の改正への対応がテーマとなっている。臨床研究と位置付けると個人情報の除外規程になるのでおおよそ従来の方法で問題ないことを確認しつつある。年度内に各施設に倫理状況についてのアンケートを取る予定で準備している。注意しなければいけないのは、従来連結不可能匿名化と考えてきたものが、匿名化の考え方が変わった結果、どこかに連結表があることで匿名情報ではない、ということになる点である。」

(5) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会 特になし

(ハ) 周産期委員会

①第2回周産期委員会を1月27日に開催した。

②日本小児科学会・日本産科婦人科学会合同会議の活動状況について [資料：総務2-2、2-3]
竹田省委員長「合同会議は2度開催され、1回目は新生児科医を増やすための方策やビタミンKの投与方法などを議論し、2回目は新生児医療提供体制確保のためのグランドデザインを策定し、関係4学会による新生児医確保のための方策に関する提言を作っていくことになった。」

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン2012頒布状況
2月2日現在、9,174冊。

②低用量経口避妊薬、低用量エストロゲン・プロゲスチン配合薬ガイドライン2015頒布状況
2月2日現在、4,594冊。

[II. 官庁関係]

(1) 厚生労働省

①厚生労働省健康局より、第69回保健文化賞候補者の推薦についての案内を受領した。

[資料：総務3]

青木大輔理事「3月末を目途に理事の先生方に回付して推薦対象を出していただくようにしたい。」

②厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課より、平成29年度新規事業の「産婦健康診査事業」の実施要綱(案)を作成したので、その内容について本会に説明したいとの通知があった。

本件は事務局で対応することにした。[資料：総務3-1]

青木大輔理事「先生方にも本日の資料を見ていただき、何か問題があれば今週中に意見を出していただきたい。」

③厚生労働省保険局保険課より、先日、出産育児一時金の直接支払制度の要綱を改訂したが、それ

に関する Q&A について確認してほしいとの依頼があった。単純な誤植を除き問題ない旨を回答した。[資料：総務 3-2]

(2) 外務省

外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第 1 課より、同省が「内外発信のための多層的ネットワーク構築事業」で招聘したモンゴルの記者からの「妊娠した女性は出産にいたるまで病院において妊娠・出産に関するどのような支援を受けられるのか、について取材したい」との要望に対応できる都内の病院を紹介してほしいとの依頼があった。東京大学医学部附属病院の永松健先生を紹介した。[資料：総務 4]

(3) 熊本県

熊本県健康福祉部より、熊本地震について、災害救助法による応急救助に係る費用請求の取りまとめ依頼を受領した。本会から、医師派遣に関わる経費および傷害保険料 2,364,942 円を請求することとしたい。[資料：総務 5、5-1]

応急救助に係る費用請求を行うことについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会、日本医学会連合

2 月 9 日に日本医学会連合加盟学会連絡協議会が開催され、青木大輔先生が出席した。

[資料：総務 6]

(2) 日本産婦人科医会

日本産婦人科医会から、風疹ゼロプロジェクトへの協力をお願いを受領した。2 月を風疹月間として情報発信・啓発をしてほしいということで、風疹ゼロプロジェクトについての資料を本会ホームページに掲載した。[資料：総務 7]

(3) 日本小児科学会

日本小児科学会より、液状ミルクの国家備蓄についての要望書の共同提出のお願いを受領した。これは 2016 年 7 月 13 日付で河野太郎内閣府特命大臣あてに提出した要望書（平成 27 年度第 4 回理事会承認）を一部文言変更の上、改めて厚生労働省医政局長と雇用均等・児童家庭局長宛てに提出するというものである。本会としてもこれに参加したい。[資料：総務 8]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 日本肥満学会

日本肥満学会より、日本医学会連合に設置する「領域横断的な肥満症対策の推進に向けたワーキ

ンググループ」への参加および委員1名の推薦依頼を受領した。高松潔女性ヘルスケア委員会委員長に委員としての参加をお願いした。[資料：総務9]

(5) 乳がん・子宮頸がん検診促進議員連盟

薬師寺みちよ参議院議員から、2月8日開催の第6回「乳がん・子宮頸がん検診促進議員連盟」勉強会のご案内を受領したので苛原稔先生に出席いただいた。[資料：総務10]

(6) 日本家族計画協会

日本家族計画協会から、平成29年度女性医療セミナー「女性ホルモン製剤の新しい投与法を考える」(2017年6月4日東京：JPタワーホール&カンファレンス、6月11日大阪：コングレコンベンションセンター)の後援名義依頼を受領した。例年の依頼であり、経済的負担もないことから、本件応諾したい。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 第6回日本DOHaD学会学術集会および第57回日本先天異常学会学術集会より(2017年8月26～28日、早稲田大学理工学術院西早稲田キャンパス)後援名義依頼を受領した。産婦人科との関連性および経済的負担もないことから、本件応諾したい。[資料：総務11]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[IV. その他]

(1) NPO 法人女性の健康とメノポーズ協会から、女性の健康と働き方フォーラム(2017年3月10日)の後援名義使用依頼を受領した。例年の依頼であり経済的負担もないため、本件応諾したい。

(2) 読売新聞より、毎月1回掲載している「病院の実力」という記事で子宮・卵巣がんをテーマとして取り上げるにあたり、本会の婦人科腫瘍登録施設に同社から質問票を送る事の許可と、施設のリストの提供を依頼してきた。[資料：総務12]

公開情報の利用については問題ないがリストの提供は謝絶することについて、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) AOGIN2017Tokyo Meeting 組織委員会より、2017年10月18～19日にステーションコンファレンス東京で開催される同ミーティングに対する後援依頼を受領した。[資料：総務13]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

2) 会 計 (吉川史隆理事)

(1) 2月10日に会計担当理事会を開催し、平成29年度予算案を協議した。来年度予算の赤字を圧縮

するため、昨年 11 月に申請のあった各委員会予算のうち、①編集、専門医制度、教育、産婦人科未来の各部署・委員会の旅費の 30%削減、②それ以外の各部署・委員会費用の 20%削減、③書籍の発送費を購入者負担とすることを協議した。[資料：会計 1、2、3、4]

吉川史隆理事「平成 29 年度予算は積み上げベースで 5 千万円程度の赤字となった。協議の結果、予算削減対応として委員数を減らしたり、メール会議を増やすなどして旅費を削減することになった。これに書籍の発送費を購入者負担とすることを加えて 1 千万円程度の赤字になる。」

藤井知行理事長「①の 4 部署・委員会については、事業本体の遂行に問題が生じるので旅費部分のみの削減とし、他は旅費の比率が高いので一律カットとした。書籍発送費については、本を買って持ち帰ると後送するので支払い額が異なるのは世の常識だと思う。購入者負担とすると 1 千万円ほど本会会計にプラスとなるので、そのように進めたい。」

嘉村敏治監事「15 年ほど前に本会は会計破綻の危機にあり会費値上げを議論したことがあった。今回は様々な手を打って節約を進め、会費値上げを回避できるようにお願いしたい。」

来年度予算での各部署・委員会費用の削減と書籍発送費の購入者負担について、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 書籍の発送費を購入者負担とすることについて、①実施時期、②会員への告知方法、③関係委員会、関係学会への通知、④送料 (500 円 or 1,000 円、1 回 or 1 冊) などを早急に決める必要がある。

八重樫伸生副理事長「本日のところは書籍発送費の購入者負担を承認いただければよい。具体的な進め方は Kalib との関係や販売方法の様々なケースを考慮して判断していきたい。」

岩下光利監事「専門委員会には小委員会の数が多いところもある。」

吉川史隆理事「専門委員会の次年度計画の際に、小委員会に事業の優先順位を付けていただき、財政状況を勘案してどこまで採用するか決めて行くようにしたい。」

藤井知行理事長「専門委員会はいま小委員会を組成しているところなので、次期委員長に委員の数などを工夫して旅費を削減するようにお願いを出した。」

青木大輔理事「12 月の専門委員会運営会議の際に、財政の逼迫を前提に費用を各委員会 600 万円ベースに圧縮をお願いしており、公募小委員会などもほぼ決まっている状況にある。その上に一律 20% となるとかなり厳しい話なので、少しきめ細かく見ていただきたい。」

藤井知行理事長「来年度予算での具体的な赤字額が見えてきたので、会計担当理事会で対応を議論した。個々の話には適宜対応していきたい。」

3) 学 術 (竹田省理事)

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

①第 4 回学術委員会、第 4 回学術担当理事会を 3 月 3 日に開催する。

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第 69 回学術講演会プログラム委員会

工藤美樹第 69 回学術集会長「宿泊場所にはまだ余裕があるので、学会の予約システムを通すと問題なく取れるようになっている。」

藤井知行理事長「宿泊を受け付けた場合は必ず返事を出すようにしてほしい。」

(ロ) 第 70 回学術講演会プログラム委員会

①シンポジウム演者選考委員会、特別講演演者選考委員会を 2 月 14 日に開催する。

(ハ) 第 71 回学術講演会プログラム委員会

①プログラム委員会を 1 月 13 日に開催した。

4) 編集 (加藤聖子理事)

(1) 会議開催

2 月 14 日	和文誌ならびに JOGR 編集会議
----------	-------------------

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況 : 2017 年投稿分 (2 月 2 日現在)

Accept	0 編
Reject	17 編
Withdrawn/Unsubmitted	43 編
Under Revision	0 編
Under Review	67 編
Pending	0 編
Expired	4 編
投稿数	127 編

2016 年投稿分

Accept	216 編
Reject	1,000 編
Withdrawn/Unsubmitted	110 編
Under Revision	47 編
Under Review	96 編
Pending	0 編
Expired	4 編
投稿数	1,473 編

加藤聖子理事「本日の編集会議の報告だが、AE は継続して依頼することになった。予算について、JOGR の編集会議はグループを 2 つに分けて各 1 回、合同会議 1 回、コアメンバー会議 1 回として旅費を削減することにした。また RMB への JOGR からの移行については推薦レターを出すことにした。」

5) 渉外 (木村正副理事長欠席につき、上田豊主務幹事)

[会議開催]

(1) 3 月 3 日に第 3 回渉外委員会を開催予定である。

[FIGO 関連]

(1) 2 月 22~23 日、ロンドンにて開催される FIGO Constitution Review meeting に木村正副理事長が出席予定である。旅費、および宿泊費は FIGO が負担する。

(2) FIGO Working Group on Good Clinical Practice in Maternal-Fetal Medicine が作成した妊娠中のアスピリンに関する勧告について、周産期委員会およびガイドライン産科編委員会のご意見を伺い、一部修正を求める旨をFIGOに伝えた。

(3) 小西郁生監事、および古山将康教授(大阪市立大学)がFIGO Scientific Programme Committee ChairよりAdvisory Committee for XXII FIGO World Congress 委員就任依頼を受け、これを受諾した。

[AFOG 関連]

(1) 本会より推薦したShan S. Ratnam - Young Gynaecologist Awards (SSR-YGA) 候補者3名がAFOGに承認され、XXV AOCOG 2017 (6月15~18日、於:香港)にて表彰の予定である。[資料:渉外1]

[日韓台関連]

(1) 56th Annual Congress of TAOG (3月18~19日、於:台湾 台北)のバンケットにて、日韓台若手医師のパフォーマンスを披露するようTAOGより依頼され、若手医師が準備を進めている。

嘉村敏治監事「日韓台の交流について、韓台の学術集会の時には日本人の名誉会員を招待している。本会にも韓国人、台湾人の名誉会員はいるが、対応は学術集会長に任せられており学会としてどのような対応にするか考える必要があるのではないか。」

工藤美樹第69回学術集会長「渉外から依頼があって集会長が対応している。」

藤井知行理事長「渉外がまず判断するという事でよいと思う。」

[国際協力機構(JICA)/草の根技術協力事業(草の根パートナー型)「工場労働者のための子宮頸がんを入口とした女性のヘルスケア向上プロジェクト」関連]

(1) 1月中旬に佐藤美紀子幹事、ルイズ横田奈朋医師(横浜市大)、および藤田則子医師を技術指導のため、プノンペンに派遣した。1月下旬より藤田則子医師、および西野るり子医師をプノンペンに派遣し、西野医師は3月中旬まで滞在の予定である。2月に松本安代医師をプノンペンに派遣した。

6) 社 保 (北脇城理事)

(1) 会議開催

2月10日に第3回社保委員会を開催した。

(2) 平成29年度 治験候補薬及び治験候補機器等の本会からの推薦について [資料:社保1]

北脇城理事「治験候補薬としてMELKinhibitorを卵巣癌に使いたいという応募が会員からあった。これを本会として推薦したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (3) 「第5版 産婦人科医のための社会保険ABC」初刷2,000部が刊行され、理事長、副理事長、理事、および社保委員へ送付した。
- (4) 本会より日本医師会疑義解釈委員会へ供給継続を要請したE・P・ホルモンデポー筋注について
[資料：社保2]
北脇城理事「本件は製薬会社から説明に来たが、限られた先生しか使用していないということで、供給中止を了承せざるをえないとの結論となった。」
- (5) 日本医師会疑義解釈委員会より、平成29年3月経過措置移行予定品目(28疑0736)、および平成28年度第4回供給停止予定品目(28疑0733)についての検討を依頼され、本会による検討結果を回答した。
- (6) 外保連試案に掲載の子宮悪性腫瘍手術の手術名について [資料：社保3]
北脇城理事「腹腔鏡下やロボット支援についても保険適用を目指しているが、切除範囲を具体的に書く必要があるということで、単純・準広汎・広汎と分けたい。」
吉川裕之理事「切除と言わずに摘出という方がよいのではないかと。」
北脇城理事「日本婦人科腫瘍学会や日本手術学会から、この文言ではどうかという提案を受けて審議した。」
嘉村敏治監事「広汎性子宮頸部摘出術はどのような取り扱いとなるのか。」
北脇城理事「広汎性子宮頸部摘出術もこれに入れてほしいということで検討したが、外保連の調査に対応する必要が出るので今回はこれに止めた。」
藤井知行理事長「それを考えると切除の方が使い勝手のよいことになる。」
吉川裕之理事「すべての術式を用語集と合わせるように全面的に変える必要があると思う。今回は切除にしておいて見直す時に一斉に対応するのがよい。」
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。
- (7) 日本臨床検査医学会よりヒューナー検査(D004 20点)の保険適用削除について意見を求められ、医学的にも、保険上の観点でも、同検査の不要論が上がったことはない旨回答した。

7) 専門医制度 (吉川裕之理事)

(1) 会議開催

第4回中央委員会を1月28日に開催した。

(2) 専門医更新の審査料、登録料の値上げについて

現在は専門医更新審査料5,000円、登録料15,000円の計20,000円だが、審査料10,000円、登録料20,000円の計30,000円に値上げしたい。そのため、専門医制度規約施行細則を改定したい。

[資料：専門医1]

吉川裕之理事「今回はIT投資を行ったことが値上げ理由になる。」

佐川典正議長「認定の際の登録料が15,000円で更新登録料が20,000円というのはおかしくないか。更新の際の方が手続きは簡単であるように思う。」

吉川裕之理事「審査料、登録料共に15,000円にすることにしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 認定証 (専門医、指導医)、専攻医指導施設指定証の表記変更について

認定期間等を元号から西暦での記載に変更し、会員番号や氏名等を手書きの筆耕ではなく印字で行うこととしたい。[資料：専門医 2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 日本専門医機構

①日本専門医機構から「専門医制度新整備指針」が提示されたことに伴い、平成 30 年度に研修を開始する専攻医のための「専門研修プログラム整備基準」と「モデル専門研修プログラム（都市圏・地域圏）」の改訂版を 1 月 19 日に機構へ提出した。

②「専攻医研修管理システムの利用開始のご案内および利用する専攻医情報のご提供のお願い」について各基幹施設へ 1 月 31 日に通知した。[資料：専門医 3]

③平成 28 年度の日本専門医機構認定専門医更新は 625 名が本年 4 月 1 日付で認定される予定である。

これに伴い、本会から機構に 625 万円の更新認定料を支払う。[資料：専門医 4]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

④機構単位認定のための e-learning の課金について

平成 29 年度に e-learning を整備し、機構受講単位認定時には 1 単位につき 5,000 円の自己負担が生ずるようなシステムとしたい。またその際の e-learning の演者に対する謝金はなしとしたい。

[資料：専門医 5]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

⑤サブスペシャルティ領域専門医の制度設計に関わる意見について、機構への回答案を作成した。

[資料：専門医 5-1]

吉川裕之理事「臨床遺伝、超音波、がん薬物療法は(2)に入れたい。また(3)に乳腺と家庭医療を加えたい。(6)に内分泌、乳がんの各学会を入れたい。」

藤井知行理事長「他に意見があれば加えてほしい。まずはこれで進めたい。」

⑥1 月 13 日に開催された第 9 回理事会の概要について [資料：専門医 6]

⑦日本専門医機構への貸出について

桜田佳久事務局長「貸出のためには金銭消費貸借契約書を結ぶ必要があるが、先日機構と合意に至った。今月中に締結して貸出を実行したい。」

藤井知行理事長「基幹学会の中で立場の違いもあり専門医の更新が進まないため、機構の財政状況はさらに悪化している模様である。機構が完全に破たんすることはないと思うが本会の協力姿勢を示す上で、ここで貸出を実行したい。」

8) 倫理委員会（苛原稔委員長）

(1) 本会の見解に基づく諸登録（平成 29 年 1 月 31 日）

①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：77 研究

②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：608 施設

③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：608 施設

④顕微授精に関する登録：564 施設

⑤医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：68 施設

⑥提供精子を用いた人工授精に関する登録：12 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

2月1日現在申請 605 例 [承認 528 例、非承認 16 例、審査対象外 27 例、取り下げ 5 例、照会 16 例、保留 2 例、審査中 11 例] (承認 528 例のうち 19 例は条件付)

(3) 「ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する見解」の遵守に関する会告の学会誌掲載について
[資料：倫理 1]

苛原稔委員長「夫婦の同意をきちんと取って進めるように機関誌 3 月号に掲載して見解の遵守を図りたい。」

(4) PGS 特別臨床研究について

苛原稔委員長「PGS 特別臨床研究はほぼ準備が整い、エントリーが始まったところである。4 施設が倫理委員会を通して実施可能となっている。もう 1 施設は倫理委員会にかかっているところである。本日の記者会見では、名前を出すことを了承している施設の施設名、プロトコルを含めてきちんと説明したい。」

(5) 会議開催

- ① 1 月 30 日に「平成 28 年度第 4 回着床前診断に関する審査小委員会」を開催した。
- ② 2 月 14 日に「平成 28 年度第 4 回倫理委員会」を開催する予定である。
- ③ 2 月 27 日に「平成 28 年度第 5 回着床前診断に関する審査小委員会」を開催する予定である。
- ④ 3 月 21 日に「平成 28 年度第 5 回倫理委員会」を開催する予定である。

苛原稔委員長「前回の理事会で、NIPT の件で譴責処分とした A 会員は、始末書を提出しなかったの
で会員資格停止処分にすることを検討したい。また PGS の件で譴責処分とした B 会員も同様に進め
たい。今後は平岩敬一先生と十分に相談しながら対応方針を決めていきたい。」

9) 教 育 (八重樫伸生副理事長)

(1) 会議開催

2月6日	産婦人科研修の必修知識打合せ会
2月10日	専門医試験問題作成委員会 (婦人科腫瘍)
〃	専門医試験問題作成委員会 (女性医学)
2月17日	専門医試験問題作成委員会 (生殖)
2月24日	専門医試験問題作成委員会 (周産期)

(2) 書籍頒布状況

電子版 (iOS 版並びに Android 版タブレット端末専用) : 2 月 2 日現在

必修知識 2013 単体	338
用語集単体	204
必修知識 2013+用語集	206
産婦人科研修の必修知識 2016-2018	ダウンロード 475

書籍版 : 2 月 2 日現在

	入金済み (冊)
産婦人科研修の必修知識 2016-2018	442
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き	405
産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集	462

産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集	549
用語集・用語解説集改訂第3版	3,257
若手のための産婦人科プラクティス	3,267
専門医試験例題と解説 2014	1,221
専門医試験例題と解説 2015	1,106
専門医試験例題と解説 2016	171

(3) 産婦人科研修の必修知識について

産婦人科研修の必修知識は次回発刊版を2019年春に発刊予定としている。今後打合せ等を通して理事、幹事の先生方に執筆や確認のお願いをすることもあるかと思うのでその際はご協力をいただきたい。

(4) 用語集・用語解説集について

パブコメと理事会等で、ご意見をいただいた下記の用語について、教育委員会で協議・承認を得て回答を作成し、それぞれ意見をいただいた理事と会員等へ送付した。[資料：教育1]

- ① Ovarian cystectomy
- ② 分娩後異常出血
- ③ 癒着胎盤（固着胎盤）
- ④ 帝王切開癒着部症候群
- ⑤ Trachelectomy
- ⑥ B-Lynch 子宮圧迫縫合
- ⑦ 産科医療補償制度
- ⑧ 習慣性常位胎盤早期剥離
- ⑨ 絨毛膜羊膜炎
- ⑩ 月経障害
- ⑪ 月経周辺期
- ⑫ 処女膜癒着、処女膜後部の欠損、処女膜辺縁部の不整
- ⑬ 閉経後性器尿路症候群
- ⑭ 補完代替医療
- ⑮ 多精子受精
- ⑯ 骨系統疾患に関連する語句と解説
- ⑰ 妊娠高血圧症候群の英語表記名
- ⑱ 冠名用語の日本語表記
- ⑲ ICD-10 をふまえた妊産婦死亡率・間接産科的死亡の修正

(5) 妊娠回数、分娩回数の数え方について [資料：教育2]

- ① 「妊娠回数、分娩回数の数え方について」案を作成した。
- ② 久具宏司先生に本件の担当と教育委員会委員を委嘱したい。
- ③ 今後の予定として、平成29年度から1年かけて全国の連合地方学会学術集会での解説講演、本会機関誌およびホームページにパブコメ掲載を行って周知し、平成30年5月の第70回学術集会（仙台）の際の臨時総会で決定し、決定直後から速やかに統一した表記を使用したい。

(参考)

平成29年度連合地方学会・学術集会
九州・沖縄 6月3日4日 佐賀大
北陸 6月3日4日 新潟大
東北 6月17日18日 秋田大

関東	6月17日18日 東京大 12月9日10日 獨協医大
近畿	6月17日18日 大阪市大 10月29日 和歌山県立医大
北日本	9月2日3日 東北大
中国・四国	9月23日24日 広島大
東海	3月10日11日 (平成30年) 名古屋大

八重樫伸生副理事長「妊娠回数、分娩回数の数え方を会員にご理解いただくために、作成者である久具宏司先生に全国を回っていただくことを考えている。」

齋藤滋理事「妊娠回数、分娩回数の数え方の中での表現についてはもっと丁寧に検討した方がよい。」

八重樫伸生副理事長「了解した。」

吉川史隆理事「久具宏司先生に回っていただくのは、学会として派遣するのか、各連合地方学会が呼ぶということなのか。費用の問題もあるので統一しておいた方がよい。」

藤井知行理事長「久具先生にお願いするのはよいが、用語委員会の委員がだれでも答えられるようにはできないのか。」

八重樫伸生副理事長「検討してみたい。」

(6) 産婦人科研修の必修知識編集委員会委員長である田中守先生を、教育委員会委員として追加委嘱したい。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 「奇形」を含む医学用語につき、日本小児科学会より平成28年12月15日付にて本会の審議への参加可否等に関して依頼があった。1月20日開催の用語集・用語解説集編集委員会コアメンバー会議で、審議に参加することおよび審議委員として久具宏司先生に参加いただくことになった。

苛原稔理事「ICMART(イクマート)というARTの国際統計をとっている組織が不妊に関する用語を決めており、最近、新しい用語を決めたという通知が日本生殖医学会に届いた。これが世界の趨勢になると考えられるので、可能であれば今回の用語の改定に間に合わせられないか。」

藤井知行理事長「コンセンサスミーティングは終わっているので、次の改定時になる。」

八重樫伸生副理事長「用語集・用語解説集は来年4月に発刊予定だが、その時に懸案事項を残そうとしているので、イクマートの件もそこに載せることはできる。」

苛原稔理事「日本生殖医学会でまとめて問題点を上げて7月頃を目途に本会に送るようにしたい。」

10) 地方連絡委員会 (八重樫伸生委員長) 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (齋藤滋委員長)

(1) 会議開催

広報委員会を2月14日(火)13:00~14:30に開催した。

(2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料: 広報1]

齋藤滋委員長「154 件の応募があり 52 名の方の就職が決まっているなど、比較的利用されている。」

(3) ホームページについて

①ホームページアクセス状況について[資料：広報2]

(4)ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報3]

(5)Reason for your choice 20号について [資料：広報4]

齋藤滋委員長「これをリクルートの一環として利用してほしい。」

2) Human+・Baby+プロジェクトチーム (青木大輔チームリーダー)

(1) Human+およびBaby+の取り組み状況について 特になし

3) 震災対策・復興委員会 (増崎英明委員長)

(1)「日本産科婦人科学会福島産婦人科医療復興支援事業、福島産婦人科医療復興支援セミナー(仮)」
共同開催のお願いについて [資料：震災対策1]

増崎英明委員長「9月16日に福島県でセミナーを開催したい。詳細は決まっていないが、福島に応援に行った先生方から講演いただくことを考えている。主催は国会、福島県産科婦人科学会、福島県立医科大学、共催が福島県、福島県産婦人科医会となる予定である。」

本セミナーを主催することについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2)福島医師派遣について [資料：震災対策2]

増崎英明委員長「まだ空いている月とバッティングしている月があるので調整を進めたい。」

4) 診療ガイドライン運営委員会 (峯岸敬学会側調整役)

(1)産科編委員会(板倉敦夫委員長)

①会議開催 なし

②「産婦人科診療ガイドライン-産科編2014」頒布状況について(2月2日現在)

書籍版：12,986冊

書籍版+ID/PW付き：4,673冊

電子版ダウンロード：2,200件

(2)産科編評価委員会(増崎英明委員長) 特になし

(3)婦人科外来編委員会(小林浩委員長)

①会議開催 なし

②「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2014」頒布状況について(2月2日現在)

書籍版：7,010冊

書籍版+ID/PW付き：3,725冊

電子版ダウンロード：1,776件

(4) 婦人科外来編評価委員会（青木大輔委員長） 特になし

5) コンプライアンス委員会（工藤美樹委員長） 特になし

6) 医療改革委員会（海野信也委員長） 特になし

7) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会（岡本愛光委員長）

(1) 会議開催 なし

(2) 日本医師会および日本医学会より、第69回学術講演会に於いて「日本医師会女性医師支援センターおよび女性医師バンク」の広報活動を行う機会をいただきたいとの添付依頼文書を受領した。工藤美樹第69回学術集会長に相談し、「展示ブース」で対応していただくことになった。

[資料：男女共同1]

8) 産婦人科未来委員会（生水真紀夫委員長）

(1) 会議開催

2月3日	スプリング・フォーラム予行会
------	----------------

(2) Plus One Project 未来の産婦人科医育成セミナー ～全国の若手医師と交流しよう～

①2017年5月13日（土）14日（日）の2日間にわたり、東京・フクラシア東京ステーションにおいて開催すべく準備を進めている。

②実技をお手伝いいただく若手指導者の公募を2月15日を締切として行っている。

若手指導者に対しては旅費・宿泊費の支給は行わないが、優先枠として1人の指導者に対して2名の参加者枠を設けた。

③宿泊ホテルの確保に関して

中国等からの旅行者が多く東京駅近辺のホテルをとりづらくなっているという情報があり、JTBを通して70室を押さえた。

(3) 産婦人科サマースクールについて

①2017年8月19日（土）20日（日）の2日間にわたり、千葉・かずさアカデミアパークにおいて開催すべく準備を進めている。

②若手実行委員については昨年お断りした方を優先に都合を聞いている。人数の調整を待って公募も考慮している。

③参加者募集方法、選考方法については、前回終了後のご意見を踏まえ見直しを図りたい。

岩下光利監事「サマースクールは医学生対象なので、学生会員に対してのアプローチを考えてもよいのではないかと。継続的にコンタクトを取ることも考えてほしい。」

生水真紀夫委員長「本人の了解を取ってコンタクトを取ることを進めている。」

(4) 産婦人科スプリング・フォーラムについて

- ①2017年3月18日(土)19日(日)の2日間にわたり兵庫・淡路夢舞台国際会議場において開催する。
- ②応募者は64名(うち1名辞退)
- ③今回のスプリング・フォーラムの開催に寄せて、スプリング・フォーラムWGリーダー 園田正樹先生の寄稿文が淡路夢舞台国際会議場ニューズレターAGENDAに掲載された。

9) 女性活躍のための健康推進委員会 (大須賀穰委員長)

(1) 会議開催 なし

(2) 女性の健康週間2017について

①2月13日、日本経済新聞夕刊全国版「丸の内キャリア塾」に女性の健康に関する記事広告を掲載した。[資料：女性活躍1]

②丸の内キャリア塾スペシャルセミナー「女性の健康週間に学ぶ健康マネジメント～私らしく輝くために～」(3月1日、8日、於：ステーションコンファレンス東京・サピアホール)の参加申し込みが2月17日(金)締切となる。[資料：女性活躍2]

(3) 地方学会担当市民公開講座について [資料：女性活躍3]

大須賀穰委員長「地方学会担当市民公開講座は23府県で行うことになった。これにより本会からの補助金は予算の範囲内に収まる。」

10) 臨床研究管理・審査委員会 (竹下俊行委員長)

(1) 黒川裕介先生より申請のあった研究課題「生殖補助医療後妊娠における周産期合併症および予後に関する因子の抽出に関する疫学的研究(主に臍帯および胎盤付着部異常について)」について、1月18日に臨床研究審査報告書(承認)を提出した。[資料：臨床審査1]

(2) 平成28年度第2回臨床研究管理・審査委員会を2月1日(水)に日本産科婦人科学会会議室にて開催した。

竹下俊行委員長「臨床効果データベース整備事業において、個人情報保護委員会の設置が義務付けられており、この場で個人情報に関する協議を行った。」

11) 医療安全推進委員会 (増崎英明委員長)

(1) 日本医療安全調査機構から、3月22日に開催する平成28年度協力学会説明会の案内を受領した。増崎英明委員長が出席する。[資料：医療安全1]

12) 公益事業推進委員会 (八重樫伸生委員長)

八重樫伸生委員長「今年度から会員に寄附をお願いしたところ、100名近い会員から500万円程の寄附をいただいた。寄附いただいた会員には理事長名での感謝状をお渡しするが、総会では全体の数字を報告する方向で考えている。企業からの寄附は5社、300万円程集まっている。」

13) 児童虐待防止のための女性支援委員会（荻田和秀委員長）

昨年11月に実施した全国調査のデータ集計を行った。現在集計したデータを解析し、通信で委員会を開催して各委員との意見交換を行っている。

荻田和秀委員長「2,500施設にアンケートを行い1,538施設から回答をいただいた。573施設から担当した子どもが児童虐待にあったという回答になっている。取りまとめて報告したい。」

藤井知行理事長「会員への還元場として、学術集会の際に専門委員会報告の隣などにポスターにして掲示してはどうか。」

荻田和秀委員長「了解した。」

14) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会（井坂恵一委員長）

(1) 会議開催

3月3日に第2回婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会を開催予定である。

III. その他

(1) 常務理事会の日程変更について

苛原稔理事「11月10日に予定されている第3回常務理事会は、日本乳癌検診学会とバッティングする。多数の常務理事の先生方の参加もお願いしたいので、可能であれば常務理事会の日程を変更していただけるとありがたい。」

藤井知行理事長「11月7日の火曜日ではどうか。」

第3回常務理事会を11月7日に変更することについて、特に異議はなく、全会一致で承認された。

以上